

あるから自由に計畫實施することが出来るのである。新國家の當局は徒に舊來の因襲に泥むことなく、大膽に周到に其の道路計畫を樹立せられんこと熱望千萬である。

道路改良會は我國に於て過去十數年の久しきに亙り、或は道路改良の必要を朝野の間に鼓吹し、或は其の實際的方面の指導に従事する等、我國の道路改良事業の上に顯著なる貢獻をなし來つたことは、夙に世の認むる所である。今や滿蒙の天地に新しき友邦の成れるに對して、能ふべくんば道路改良會の如き有力なる團體が、其の多年の經驗と豊富なる蘊蓄を傾けて、新國家の好き相談對手となり、其の道路施設の上に寄與せらるゝ所があつたならば、其の結果は實に滿蒙三千萬民衆の福祉たるのみに止まらないであらう。

滿洲國に於ける道路の開發

算 正 太 郎

昨秋柳條溝の鐵路に企てられたる一爆破を導火線として、日清日露の兩戰役以來我同胞の碧血を以て色どられたる滿洲に於て、多年排日侮日の極を盡したる支那軍閥に對する日本の正當なる排撃となり、是がやがて滿蒙三千萬の民衆に對して、積年の腕力及資本に於て横暴の限を盡して居つた權

勢の排除となつて、遂に今回滿蒙の民族自決の結果新滿洲國の成立を見るに至つたのである。滿洲國の建設それ自體に關しては、直接日本が之に關係が無いとしても、新國家の版圖に屬する我が權益に對する日本の自衛權の行使が其の建國の動機となつたのであり、而して又接壤隣邦の交誼としても、我國としては滿洲國の前途に對して、出來るだけの援助を與へなければならぬことは當然である。

二

滿洲國が將來健全なる發達を遂げる爲には今後幾多の施設計畫を要することは勿論であるが其の根本となるべきは産業の開發と文化的施設の普及であらう。而して吾人が最近親しく滿洲の地を視察して最も深く感じた事は、此の際に於て、先づ何よりも必要なる施設は交通機關の整備である。

滿洲國は廣袤約八萬方里、日本本土と各植民地を合せたる面積の一倍七分に達して居る、其の内農業に適すべき、可耕の土地は二千五百萬町歩であつて、而も其の半は現在交通不便の爲に未開の状態に置かれて居るのである。又林産に就ても、或は吉林方面に於て、或は三姓地方等に於て、所謂千古斧鉞を加へざる森林が鬱蒼として人類の開發を待つて居る。其の他鑛産に於ても、既に人の知る如く、其の開發せられたる所は南滿及北滿の僅に一部であつて、全土に亘つて無盡藏の天然資源を埋藏して居り、石炭の如きも三十億噸の埋藏量を有すると謂はれ、其の他鐵鑛、頁岩、マグネサイト等世界に有數なる鑛床と稱せられて居る。是等の天然の物資の開發は、今後滿洲に於ける政情の安定、人口の増

加と共に、一に交通機關の整備に俟つ所大なるものがあるのである。

三

そこで第一に考へられるのは、鐵道の敷設に依つて交通の便を開くことである。滿蒙に於ける鐵道の總延長は現在六千キロ餘であつて、之を日本内地の程度に發達せしむるとすれば、現在の四倍乃至五倍の延長に達しても猶不足を感ずるのである。特に吉林會寧間、延長海林子、長春大賚間の如きは所謂滿蒙五鐵道として取扱はれたるもので、今日迄敷設せられないのは寧ろ奇異とすべきであり、其他にも拓殖の目的を達しつゝ相當の収益を收め得べしと認めらるゝものが他々ある。何れにしても交通主要幹線として鐵道の普及は大いに必要である。同時にまた滿洲では將來航空輸送事業の發達に最も留意しなければならぬ。由來滿蒙の地は廣漠たる原野が多く、氣流の激變が少いので、航空事業は日本に於けるそれよりも非常に容易である。而も到る處に適當なる着陸場が自由に得られる等、すべての好條件を具備して居るので、將來の空輸事業は蓋し最も囑目すべきものがある。

四

併しながら余は是等の施設よりも、今日の滿洲に先づ第一に交通機關として必要なのは、道路の開發であると思ふ。

現在滿鐵の附屬地等には相當の築造せられたる道路があるも、其以外の所は市街地に於てさへ鋪裝道路は極めて少なく、極端に云へば塵芥捨場と同様であつて、車を驅るならば車軸が泥濘の中に没してしまふ事は稀有ではない。又一朝大雨があると下水もないから町は川と變るそうである。況んや一步都會地を離れた田舎の道路になると、所謂泥濘馬脚を没するといふ語があるが、是は決して誇大なる形容詞ではなくして、事實其の通りである。其道路も少いから畑の中でも何處でも通行し又川には橋が減多にない。然らば、今日彼の滿蒙地方に於ては物資の搬出は如何なる方法に依つて居るかといふと、冬期結氷の上を運搬することが最も安價な輸送方法とされて居る。若し茲に相當なる道路が築造せられて、一年中を通じて道路交通が容易に出来る事になつたならば、經濟上からも滿洲國の繁榮を助長促進することは多大なものである。而して特に滿洲では馬が多く、又馬糧なり、馬夫の生活費などが非常に廉い爲に、馬車が安價に得られる、現に哈爾賓でも長春でも、市内は五錢均一で馬車を傭ふ事が出来るといふ狀況である。此の馬匹の豊富にして比較的安く得られる事より滿洲國に於て今後自動車交通網を全土に發達せしめる事は未だ前途遼遠であると云ふべきである。故に先づ差當り馬車輸送に適應する程度の道路の開發をする事が機宜に適すると思ふ。又技術上よりするも冬季數ヶ月間は嚴寒の爲に北方では地下水結五尺にも及ぶので餘り立派な鋪裝も經濟上考え物である、然して現に東支南線等に於て貨車の輻輳する時には馬櫓等を用ひて鐵道運賃よりも安く大豆等の輸送が行はれて居る實況からすれば鐵道より先づ馬車道と云ふが當然と思はれる。

五

上述の如く産業開發の方面より見て、道路の開發が最も必要であると共に、今日滿洲に於ては所謂匪賊の横行の爲に、官民共に非常に惱まされて居る。此の匪賊といふものは所謂強盜などの如き兇惡なる者の集團のみではなくして、敗鼠兵なり、貧民なりが職を得られず、生活に苦しむ爲に、已むを得ず隊を成して匪賊となつて居る者も多いのである。故に是等に對しては、先づ生業を興へ、生活の資料を興へるといふことが、治安維持の上にも甚だ必要な事である。

茲に於て是等の窮民に職を興へる爲にも、大規模な道路開發の事業を起すことは、まことに一舉兩得の策であると思ふ。同時にまた道路が開發せられてあれば、一朝匪賊が現れた場合に之を討伐するにも非常に便利になるのであつて、滿洲の前途を明るく建設して行く上にも、道路の整備が最も必要な事であると思ふ。即ち道路の開發に依つて産業の發達を促進し、一は之に依つて匪賊に生業を興へて良民たらしめ、同時に匪賊の討伐に利用することが出来るといふ、洵に一舉三得とも謂ふべき妙策であらうと思ふ。

之を要するに、吾人は新に生れたる弟とも謂ふべき滿洲國の健全なる發達を支援し、保導する意味に於て、先づ是等の必要な施設計畫に對して、十分なる智力と財力の援助を吝まざることが緊要であると思ふ。